

## ○８番（上野淑子君）〔登壇〕

どうも皆さんお疲れさまです。きょう第１日目の５番目、最後でございます、上野淑子登壇の許可を得ましたので、一般質問をさせていただきます。

もう先ほど、朝よりいろんな議員さんから市民病院について、安全・安心対策についていろいろな意見が出て、また行政からもいろいろお答えをいただいておりますので、私のほうも随分と重複するところがあると思いますので、簡単に聞きたいと思っております。

先ほど来、市民病院については本当に市民から一斉に注目を浴びて、いろんな意見をいただいておりますが、せんだって、本当に私の近所の方からですけれども、「ばあちゃんが市民病院で助けてもらうたよ、ありがとうね」という声も聞きました。本当にああよかったなと思って安心いたしました。いつ、どこでも、いかなるときでも、どんなことでもすぐに対応していただける病院が近くにあるということは、私たち住民にとっては本当に心休まるところでございます。安心・安全のまずは第一歩だと思っております。本当にこの市民病院、初めは不安な気持ちもありましたけれども、今は本当によかったなという気持ちでいっぱいでございます。この喜びの声をお伝えして、私の一般質問に入らせていただきます。

初めにですけれども、（発言する者あり）

## ○議長（杉原豊喜君）

静かに。

## ○８番（上野淑子君）（続）

安心・安全対策についてです。

いろんな安心・安全対策について、たくさんのことを朝から質問されておりますけれども、私はいろんな面でふだんの安心・安全対策について、今、武雄市ではどんなふうな現状なのか、そしてまた、これからどういうふうな計画で推し進められていくのかをお聞きしたいと思っております。それと、毎度のことですけれども、公立幼稚園の問題についてお尋ねをしたいと思っております。

まず初めにですけれども、もう皆様御存じのオレオレ詐欺です。

なぜこの人はひっかかるんでしょうかねというような方がかかっておられるし——いや、かかってって、すみません。本当に大変なことだと思っております。被害はもうふえる一方です。もう新聞、ラジオ、テレビでも皆さん本当に御存じだと思いますけれども、特に高齢者や女性をターゲットにした弱者対象のオレオレ詐欺、知能犯罪というのが本当にもう増してまいりました。そしてまた、この犯罪が巧妙化して、悪質化して、本当にどうしたらいいんだろうと思うような状態でございます。

これを防ぐにはどうしたらいいんだろうか。やっぱり啓発活動以外にはないんじゃないかなと思っております。もうこれだけ市からも、警察からも、いろんなところからの防止啓発活動が行われておりますけれども、それでもひっかかる。何でだろうか。私は本当にもう大

変だなと、どうしたらいいんだろうかと思っております。

また、この総額をお聞きしても、何でこんなに、どうしたらいいのかなと。この小さな、きめ細かな啓発活動がまだまだ我が市においても足りないんじゃないかなと思っております。まずはその対策について、どのように取り組みをされているかをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

確かに議員おっしゃいますように、最近のオレオレ詐欺は非常に巧妙になってきておりますし、件数もふえております。これの未然防止策として、武雄市としてどうしているのかということでございますけれども、市としましては、CATVとかホームページ、ゆめタウンたけおナビでの啓発を中心に行っております。

それから出前講座、撃退悪質商法とかでも、特に交通教室等の講座を利用した啓発も行っているところでございます。

それから、消費生活相談窓口の充実ということで、平成19年度週2回行っておりましたけれども、これを平成20年度から4回に拡充しておりますので、こういった相談窓口の中でも特に架空請求詐欺の相談というのが多うございますので、こういった相談窓口を充実しながら、今後とも進めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

昨日、敬老会で山内町の宮野地区にお呼ばれをされて行ったときに、そのときの区長さんがオレオレ詐欺で非常にわかりやすく説明をされていて、ああ、これこそがやっぱり——で、皆さんがうんうんとやっぱりうなずきよんさったですね。

先ほど部長が申し上げたこと以外に加えて、そういう草の根的に区長さんたちが——敬老会でもっとやればよかったなと思っておるんですけれども、そういう機会をとらえて、わかりやすい言葉でまたおっしゃっていただくと、非常にきのうは感動するぐらい僕もよくわかりました。

もう1つが、これからオレオレ詐欺がまたふえていくというふうに警察庁からも話が来ておりますので、これは先ほどよりは効果はないかもしれませんが、きちんとまた市報に書いていこうと、大きな字で書いていこうというふうに思っておりますので、そういう意味で集会であるとか、紙ベースであるとか、いろんな形で啓発を呼びかけていこうと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

8 番上野議員

○8 番（上野淑子君）〔登壇〕

ありがとうございます。先ほどのそのいい例がありましたら、それをちゃんと皆さんにお知らせしていただければなと思っております。

またお尋ねですけれども、相談窓口というのに大体どれくらいの方がお尋ねになっているのかなというのもお聞きしたいなと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

ちょっと手持ちにございませんので、すぐ取り寄せて、後だって報告させていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

8 番上野議員

○8 番（上野淑子君）〔登壇〕

ちょっと詐欺の種類がいろいろあったということで、行政のほうから出ればあれだったんですけれども、オレオレ詐欺というのがあります。それから架空請求詐欺、それから融資つき証券詐欺、それから還付金詐欺といろんな詐欺の種類があって、本当に私もこれを調べる段階で、こんなに詐欺の種類があるのかなと、オレオレ詐欺はただ5件なんです。架空請求というのが24件で、それから融資のほうは85件、還付金というのが4件。これだけあるというのを聞いて、びっくりしました。

それで、金額にしても、平成20年度ではまだ半期しかたっていないのに7,675万9,054円ということで、もうすごいお金だなと思っております。やっぱりこれを防ぐに当たっては、先ほど市長もおっしゃったように、きめ細やかな指導というのも必要だと思うし、それから市報とかはなかなかみんなも見ないし、先ほどおっしゃったように敬老会とか、そんな集まりの中でやっぱり丁寧に言っていきたいと思います。また、ひとり暮らしとか、そんなところがまたねらわれていらっしゃるんですけど、だから、出ない人、ひとりでいる人、そういう方に対しての指導というのを本当に大切にしていきたいと思っております。

また、窓口の数は後ほど聞くことにして、私は詐欺についての対策をきめ細やかにお願いして、次に移ります。

次の交通安全対策についてです。

これも、私たちの安心・安全な生活の中では最も大事なものだと思っております。特に、数字を調べてみましたが、平成19年度は全国交通事故の死者は5,744人、事故の発生件数が83万2,454件、負傷者が103万4,445人、1日16人、1時間32分に1人が亡くなっていらっしゃるという件数です。その中でも、本当に驚くことですが、65歳以上の方が全体の47.52%を占めています。特に、高齢者の夜間の事故が多いといわれています。

薄暮時に、このごろはよくウオーキングされる方を見るとありますが、そのときに反射鏡をつけている人とか、つけていない人とかいろんな方がおられて、私たち運転する身においてもびっくりするようなことが多々あると思います。いま一度、高齢者に対する交通安全の対策、必要じゃないかなと思っております。

それからまた、佐賀県で小学生が関係した交通事故というのは、去年は388件、負傷者は435人、幸い死者は出なかったんですけども、交通安全についての教育の場が必要ではないかと思いました。それは、せんだって北方でも小学生が本当にひどい交通事故に遭いました。本当に、学校でもどこでも交通安全については対策を練っていらっしゃるんですけど、これもまたいつもいつも言われているんですが、また事故が起きる。どうすればいいのかなと思っております。

せんだって、私たち婦人会、全国の地域婦人会におきましては、交通安全母の会と申しまして、交通安全全国キャラバンをやっております。その際に、せんだっては長崎のキャラバン隊から佐賀県に引き継ぎがあったんですけども、長崎県の母の会では、24年度までに事故死者数を5,000人以下にとどめるという目標を達成されて、推進に頑張っていられっやうということでした。

私たち交通安全母の会としましてもいろいろな活動をしてしておりますが、どうしても行政と連携をしながら対策を練っていかねばならないと本当に強く思っております。してもしても、先ほどの詐欺と一緒に、これもまた減らないということ。ですから、行政としてはこういう状態、してもしてもこんな状態というところで、高齢者に対してはどういうふうに、子どもに対してはどんなふうな対策を考えていられっやうのか、お聞きしたいと思います。

#### ○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

#### ○大庭総務部長〔登壇〕

市民の交通安全、特に高齢者の方、子どもたちへの交通安全への啓発をどうしているかということでございますけれども、まず高齢者に対しましては、老人クラブの例会等を利用しながら、交通安全教室とか出前講座の実施をしております。去年が、高齢者のこの交通安全教室を13回開催させていただいております。それから、警察からの情報発信として、老人クラブ連合会への啓発チラシの配布、それから、交通安全運動期間中でございますけれども、自動車学校1日解放を活用しました参加体験型の交通安全教室の実施というのも行っているところでございます。

それから、子どもたちへの対策でございますけれども、これは高齢者と同じことでございますけれども、交通安全教室の開催を行っております。去年は、子どもたちに対しては9回交通安全教室を開催しております。それから、入学時でございますけれども、新入学生へのランドセルカバーの配布等を行いながら、啓発をしております。

それから、交通指導員さんを市内71名委嘱をさせていただいておりますけれども、この方たちが朝の立哨というようなことも含めまして、登校時の安全確保ということで協力をいただいているところでございます。

それから、よく目にされるかと思えますけれども、子どもたちが飛び出した絵、ああいう交通安全啓発看板等の設置等をしながら、子どもたちの安全確保に努めているところでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

8番上野議員

**○8番（上野淑子君）〔登壇〕**

行政としては、確かにいろんな啓発活動をされて、学校においてもされていると思います。でも、なおかつ、本当に今おっしゃられたことは、いつも集まって講習会をする、集まって話を聞くということは何回もあっていると思えますけれども、一回も交通安全の話ば聞いたことがなかというお年寄りさんもいらっしゃるということを御存じだと思うんですね。だから、そういうところに行かない、行けない、聞かない、つい何か用事があって行けなかった、参加の機会を逃した、そういう方がいらっしゃるということもやっぱり気をつけていかななくてはいけないなと思っております。

だから、本当に9回、13回とたくさん開いていらっしゃるようですけれども、行政としてはなかなかそこまで届かないと思うので、それぞれ指導をしていただいて、先ほどの区長会、敬老会じゃないですけど、そういうところに出向いて行ってというのは本当に大変だと思いますけれども、やっぱりこれ以上交通事故者をふやさないためには、何遍も参加して話を聞いたという人よりも、知らなかった、そういう方をどうすればいいかということを考えてほしいなと思っております。

それから、子どもの交通安全対策についてですけれども、これは教育長にいいですかね、通告しておりませんでしたけれども、学校で交通安全の安全マップですかね、危険場所とかいうのを、そういうのはどのように指導されているものか、ちょっとお尋ねしてよろしいでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

安全マップにつきましては、交通安全のみならず、不審者対応とか、声かけ事案とか含めた形での安全マップを各学校つくっているんじゃないかと。それから個人も、自宅から学校までの通学路の中で危険な箇所を書いた地図を持ったりしております。交通安全の面から、あるいは声かけ等からの安全防止、そういう観点から作成し、使用しているという状況じゃないかと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8 番上野議員

○8 番（上野淑子君）〔登壇〕

学校は安全マップをそういうふうにつくっていらっしゃると思うんですけども、私なぜ尋ねるかといいますと、せんだって北方で事故がありましたときも、私どもがおるときに、あそこで事故があったことはなかったんです。でも、このごろは引き続き事故がある。そういうふうにして変わってきているということですね。道路状況も変わっているし、いろんな面で状態がどこでも変わっているんじゃないかなと思うんです。それで、子どもの目線に立って、いま一度見直していただくように指導方お願いしたいなと思っております。

先ほどの行政に対してですけれども、一回も話を聞かなかった、聞けなかった、参加できなかった、そういう人がいらっしゃるということに対してどのようにお考えでしょうか、どういう対策をされるつもりですか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

まず、さきのオレオレ詐欺の件でございますけれども、相談が199件、全体ではあっておりますけれども、その中でオレオレ詐欺関係が24件あっているようでございます。

議員おっしゃいますように、いろんな会合等に出かけるとか、そういった機会をとらえるとか、草の根的にというのが一般的な言い方かも知れませんが、そういった機会を十分いろんな形でとらえながら、それと交通指導員さん、各町の交通安全協会、そういった機関、また警察、学校、こういったところとも十分連携をしながら、できるだけ多くの方々に啓発が行き渡るように今後とも努めてまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

8 番上野議員

○8 番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に、行政に何もかもお願いするというのはできないとわかっておりますので、どうぞリーダーシップをとられて、各種団体にいろいろなことを指導していただければと思っております。それをお願いして、次の質問に移ります。

次は、防犯灯についてです。

これももう、どんどん質問にも出ておりましたけれども、やっぱり夜の安心・安全は防犯灯からだと思っております。私は北方ですけれども、自分が歩いている道で余り暗いなということは気づかずにいたんですよ。ある日、武雄の方から、同じ武雄市ですけれども、「子どもの安全、道はじゃあ大丈夫と思うね、明るかと思うね」と質問があったんです。それで、あらあ、自分のところはそう感じなかったのにとあって、全部は回り切れませんでしたけれ

ども、回ってみました。そして、やっぱりまだまだ防犯灯が足りないなというところが多々ありました。

防犯灯設置についてはいろんな経路があって、区長さんからの申し出で防犯協会がと、いろんなあれがあるとは思っておりますけれども、私、ああこんなのも議員の役目としてやっぱり見ていかんばいかなやっとなかなと思って、本当に悪いなと心苦しく思いました。

行政として今見られて、防犯灯の上がってきた要望に対しての設置状況とか、これからとか、いろんなお気づきとかありましたら、お尋ねしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

大庭総務部長

**○大庭総務部長〔登壇〕**

お答えいたします。

年間の設置要望数と設置数でございますけれども、平成19年度で見ますと、設置要望数は98基の要望がございまして、その中で設置しましたのは91基ということで、ほぼ要望にこたえてきているんじゃないかなというふうに自負をしているところでございます。

これにつきましても、議員おっしゃいますように予算の枠内というようなことで、各町防犯協会では優先順位を決めていただきながら、対応を図っているところでございます。現在まで防犯灯は全市内で3,562基設置をしております。

今後とも区の要望、それといろんな危険箇所の点検等の中からどこがいいのか、そういうのも検査をしながら、調査をしながら、今後とも対応を図っていきたいというふうに思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

補足をさせていただきます。

確かに、防犯協会では優先順位が上がってきておりますけれども、そのほか上がらないこと等々もあろうかと思えます。それはぜひ、東川登町がやっているというふうに聞いておりますけれども、まちづくり交付金の一部活用もぜひこの際お願いをしたいというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

8番上野議員

**○8番（上野淑子君）〔登壇〕**

じゃ、この防犯灯というのは、今つけるのに対して何か条件があるんでしょうか。そのまちづくり交付金でも、ここを上げて住民の了解を得たり、住民で了承を得たらそこにつけていいものんでしょうか。そこら辺がよくわからないもんですから。

例えば、久津具から上がってきます。ここに付けてくださいと。そしたら、それは行政として、防犯協会でもいいですけど、ああそうですかとそれをつけるんですか。いろんな条件がありますか。何メートル置きとか、それから電灯料はどこが払ってどうですこうですという、そんなのがありましたら教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

防犯灯で何メートル置きについてないといけないというようなことはございません。あくまでも、防犯灯は道路を利用される方に良好な視覚情報を与えると。そのためにどこに必要なのかというようなのがまず基本になろうかと思います。そういったことで、設置する箇所につきましては、車同士とか、車両と歩行者が交差する交差点とか、そういったところを中心に、それから、特に通学路で非常にここは暗いとか、そういった視覚的な要件等を加味しながら、そういうのを見ながら設置箇所は決定をしていくということになろうかと思います。

〔８番「料金」〕

設置は市のほうで設置させていただきます（114ページで訂正）けれども、あと電灯料等、あとの維持については地元でお願いをしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

８番上野議員

○８番（上野淑子君）〔登壇〕

参考のためにお尋ねですけれども、そしたら、今何か青色回転灯じゃないですけども、その電灯をつけたら見通しがいいとか、暗闇でもよく見えるとかいう電灯がありますが、そういう電灯についてはわかりますか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

これまでは白色灯、赤色灯が中心だったと思いますけれども、最近、危険防止というような視点の中で、青色防犯灯に切りかえていただくようなこともお願いしております。ただ、若干、この青色灯は通常の白色灯、赤色灯からすると２倍、３倍（114ページで訂正）ぐらいの値段であるというふうには聞いておりますけれども、現在、非常にいろんな箇所で切りかわってきているんじゃないかなというふうに感じております。

○議長（杉原豊喜君）

８番上野議員

○８番（上野淑子君）〔登壇〕



では、そういうことも実際指導していただいて、よりよくしていきたいなと思っております。一人でも希望がありましたら、どうぞ考慮していただきたいと思います。

それから、市長がおっしゃったまちづくり交付金についても、こんな案もいいですよというのをおっしゃっていただきたいと思います。

次の質問に移ります。

次は、火災報知機についてです。

これもまた安心・安全の最も大事なものだと思いますので、私はこの数字を見てびっくりいたしました。住宅火災が本当にふえて、毎日毎日本当に大変だなと思って見ております。死者は急増しておりますが、平成15年には1,000人だったのに17年には1,220人へ、そして、昭和50年以来最多となっております。本当に大変なことだと思います。その57%は、これまで65歳以上の方たちが犠牲になっていらっしゃいます。今から高齢化していく中で、この57%というのはもっともっと上がってくるんじゃないかと懸念をされているところでございます。そしてまた、その中でも63%が逃げおくれによる犠牲者だということを聞いて、本当にもうむごいことだなと思います。何とかできないものだろうかと思っております。

平成16年6月に消防法の改正で、新築住宅、平成18年6月1日から設置義務がなされました。それから、既存住宅は各市町村の火災予防条例に定める日から23年5月31日という期間で設置及び義務がなされております。

先ほど、元吉原消防団長にもお聞きしましたら、既存住宅の設置状況はほんに悪かもんねということでございました。本当にこれはもうぜひ、つけただけで助かる命でしたら、つけていかなくてはならないなと思っております。

それで、平成23年の設置義務条例を待つまでもなく、いち早くしていかなくてはならないんじゃないかなと思っておりますが、どのような取り組みをされているのか、お尋ねいたします。

#### ○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

#### ○大庭総務部長〔登壇〕

火災報知機でございますけれども、若干火災報知機の効果について述べてみたいと思えますけれども、住宅火災100件当たりの死者発生火災件数を比較いたしますと、住宅用火災報知機が作動した火災が1.4件であるのに対しまして、その他の火災で4.5件と。やはりつけていないと、これは3倍近い件数となっているというような数字もあらわれておりますので、この火災報知機については今後とも設置について啓発をしていきたいというふうに思っております。

この啓発の方法でございますけれども、消防団を通じての春、秋の全国火災予防週間でのチラシ配布、それから市報で、これも火災予防週間の3月、11月に行っておりますけれども、

市報にも掲載をしながら進めております。それから、ホームページの防災コーナーへの掲載、それから出前講座で「地域防災を考える」というテーマを掲げておりますけれども、こういった出前講座を利用していただきながらの説明、啓発、それから市内スーパーでのチラシ配布ということで、これは女性消防団の方をお願いをしてやってもらっております。今後もこういった予防週間での啓発活動を徹底しながら、設置に努めてまいりたいというふうに思っております。

ただ、これもさきのオレオレ詐欺ではございませんけれども、火災報知機が義務化されたということで、悪質な訪問販売等が発生する可能性がございます。そういったことで、逆の面で悪質商法への注意の喚起もあわせて行う必要があるというふうに思いますので、そういったことも皆様方にお知らせしていただければ幸いかと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

8番上野議員

**○8番（上野淑子君）〔登壇〕**

もう取り組んでいらっしゃるの、うれしく思います。

私たち婦人会でも、高齢者の被害が27%もあるということで、もう全県下ですけれども、この火災報知機について取り付け作業をしようということになりました。それで、私たちだけではできないことですので、先ほどおっしゃったこれに関するオレオレ詐欺も、私たちにも何件かもうニュースが入っております。ですから、そのようなことがないように、きちっとした業者というんですか、婦人会、消防団、それから老人会、区長会とか、行政とか、そういうきちっとした方法で設置をしていかなくちやならないなと思っております。

それで、これもまた、きょう言ったのはみんな書類で出した、広告をした、プリントした、入れたというだけでは、みんなその漏れた人たちの事故ばかりのことを申しておりますので、この火災報知機についても、23年の義務になってからさあ調べろでざあっと調べるんじゃなくて、その前に一日も早く、人命を助けるためにしていかなければならないと思いますので、細やかな作業をお願いしたいと思います。

また、私たちが婦人会でもこういうふうに回っている、こうなっているというのも市報なんかでも紹介していただいて、私たちは実際ひとり暮らしのところなんかをずうっと回っていききたいなと思っておりますので、お願いしたいと思います。

それからまた、その火災報知機についてですけど、市内の市営住宅とか、そんなのはどんなふうになっているんでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾まちづくり部長

**○松尾まちづくり部長〔登壇〕**

市営住宅につきましては、年次計画を立てて、今ずっとやっておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

8 番上野議員

○8 番（上野淑子君）〔登壇〕

すみません。安心・安全についてはこの4つです。どうぞみんなで力を合わせて人命を守っていききたいなと思っております。

次に、2つ目の質問ですけれども、これまた本当に再度の質問でございます。公立幼稚園でございます。

いよいよ、また来年度の児童・生徒の募集の時期になってまいりました。ある親さんから、「ことは北方幼稚園に行ってよかろうもん」という意見もあります。それからまた、今現在行っていらっしゃる保護者の方からは、「こがん人数の少のうなるぎ、どがんなるとやろうか」という不安の声も聞かれます。現在、生徒数は定員120名に対して30名です。だから、どうなのかなという不安の声をたくさん聞いて、「いや、いいよ」と、「私も市長には、ちゃんと行政のほうにはまた再度質問して返事を聞くと言っているから、だから今回聞きますから」ということを伝えました。

12月の議会で私は質問をいたしました。その際、議事録を見ればわかりますけれども、私は入園児の募集を北方在住だけでなく、武雄市全体に広めてほしいということ。それから、4歳、5歳じゃなくて、3歳まで広げてほしいということ。理由をいろいろ言っただけだと思いますので、もう言いませんけれども、この2つを要望いたしました。そのときにたくさんいろんな返答がありましたけれども、市長の返答だけちょこっと書いておりますので言います。

「経緯とか経過を踏まえた上で、もちろん現場の皆さんの意見はきちんと聞いてまいりたいと思っております。」飛ばして、「慎重にじっくり考えるべき問題だと考えております。」と返答をいただいております。それで、私はまた聞きますと言ってその質問を終わったと思っておりますので、どのような進捗状態なのかをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

北方の幼稚園のことでございますが、最初にお断りしておきますけれども、現在、教育委員会内作業部会を設けまして、検討を続けておりまして、ある程度の方針を出した上で議員の皆さん、市民の皆さん、特に北方町民の皆さんには説明、相談、協議をお願いしたいという姿勢であります。そういう面でお答えするのも、決定的なことは申し上げられないかわかりませんが、現在の考えを幾つか申し上げたいというふうに思います。

今お話にありましたエリアのことでございますが、もう議員御存じのとおり、ほかの各幼稚園等もかなり低い充足率になっております。市全体というエリアの拡大をいたしましたときに、北方幼稚園に実際に通っていただける方、そして、その場合のほかの幼稚園等の充

足率の低下、そのあたりも十分考えられるわけであります。

それから、3歳児の入園につきましては、確かに県内でも3歳児の受け入れをしていない幼稚園というのはほとんどないような状況でありまして、ただ、合併したこの時期に、御存じのとおり、民営化の会議の報告もなされているこの段階で3歳児へという拡大を広げることが可能かどうか、そのあたりを慎重に検討しているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

検討していただいているということ、作業部会ということをお聞きしましたけれども、すみません、その作業部会の人数と、どういうメンバーが入っていらっしゃるのかということをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

作業部会は、教育委員会の教育総務課長、学校教育課長、学校教育課参事、そして教育総務課の村山係長、そして北方幼稚園から3名入っていただいているという状況でございます。7名でしていただいております。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

今、作業部会でいろいろ話をして、中身はいろいろあるとおっしゃいましたけれども、どういうふうな方向に向かって作業を進めていらっしゃるのか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

行政改革市民会議の提言で、それに基づき策定された行政改革プランの方針は、北方幼稚園の運営形態について民営化の方向を示してあるわけであります。私どもとしては、その方向を基盤としたときにどのような課題があるかということで検討しているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

12月の議会で私が質問したのは、民営化に向けての質問じゃなかったと思います。存続するためのいろんな理由、教育的な理由、それから保護者の理由、いろんな理由を申し上げた

と思います。

作業部会は、民営化のプランが決まっていますけれども、その民営化に向けての作業ということを知って私も驚いております。それじゃ、12月に私が意見を言ったことは何にもなかったんですね。（発言する者あり）いや、そうですよ。怒ってはいけないと思いますけれども、すみません。（発言する者あり）いやいや、本当、じゃ何のためにですね、私も自分1人の意見で言ったわけじゃないんです。皆さんの意見を負託されて、来て言っているんです。簡単に何ですか、民営化に向けての作業部会とは一体どういうことでしょうか。私の意見は、それじゃ12月は何にもなかったんですか。市民の意見、保護者の意見は聞かないということでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

最終的には、その作業部会で今討議をしていることが教育委員会で意思決定されて、最終的に市長である私が決定するという運びはぜひ御理解をいただきたいというふうに思っております。

その上で、私は民営化の話については、それは幾つかあるうちの要素の一つだというふうに思っています。民営化はあくまでも、市民病院もそうですけれども、持続可能なためにすることであって、それが私は目的であってはならないというふうに思っております。あくまでも手段であるというふうに思っております。その中で3歳児の話であるとか、あるいはエリアの拡大であるとか、それは要素を並べて、ぜひ教育委員会の作業部会の中で討議をきちんとしてほしいというふうに思っております。その上で、また最終的な結論の前にきちんと議論をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

12月の議会のときにも市長はそうにお答えになったんですよ。それで、私は一抹の希望を持って今回も質問をしておるんです。作業部会をされているということを初めて聞きましたし、そこではプラス思考に向けて話をされているものと私は信じておりました。

それで、もうすぐに募集しなければならない状態になっております。先ほど、こちらから「市民病院と一緒にさい」という声も聞こえましたけれども、私は違うと思っております。それは民営化と、そりゃそこんたいは一緒だと思います。でも、子どもの教育ということと、私は言い出したら長くなりますけれども、違うと思っております。それで、どうしてそういうふうな努力をされなかったかというのが残念でなりません。そして、してみなくてはわからないじゃないですか。

先ほど教育長のほうから、周りの保育園とのいろんな関係があると言われました。じゃ、周りの保育園が成り立っていかなかったら、うちの公立をやめなくてはいけないんでしょうか。そういう原理になるんじゃないですかね。私は、そんなほかの幼稚園をつぶすとか、そういうことは毛頭ありません。教育の面から考えてみて、私、ここに書いていますと思いますが、市長の教育についての考えをずうっと書いておりましたけれども、私はどうしても保護者の方がここだけをフォローしていただきたい、そしたら自分は仕事もできるし、家庭のこともしていきたい。だから、このところだけをフォローしてもらいたいという親さんが幼稚園にやるのであって、働いてどうしても時間がなくて、もう保育園にやらんばいかんという人は保育園にしかやりません。やられません。でも、教育的価値、いろんな考えをしながら、自分はこの時間帯だけ子どもを預かっていただけたら、あとは自分が見ます。子育てをしていきたいと思うと。だから、ここだけをしてほしい。そういうお母さんもたくさんいらっしゃるということ。

ただもう本当に少ないから、そいぎ何も聞かず、ここで民営化に向けて話をしておると、私はもう本当驚きました。

次の発言をどうしていいのかちょっと迷っておりますけれども、私はそんなに大切な子どもたちを大人の考え、いろんなことで切らないでほしいと思うんです。そして、一生懸命子育てに頑張っている、きょうの議員の中にも子育てをするためにどうしたらいいかといろんな意見も出たと思います。じゃ、本当に幼稚園でここだけ助けてねという親さんたちがいらしたら、するのが本当じゃないでしょうか。

そしてまた、経営が成り立っていないというのは、見るからに、だれが見ても明らかです。じゃ、児童を集める、子どもを集める努力もしなくてはならないんじゃないですか。何にもしないで、はいはいここまでよ。そんな冷たい子育てでは、武雄市じゃ子どもを育てたくないという人もいるかもわかりません。私はもっと温かい武雄市にしていきたいなと思っております。ましてや、若い市長です。子育てについては、御自分だってこれからです。若いお母さんたちはみんな期待していっぱいます。

最後に市長の考えをお聞きして、質問を終わります。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

上野議員の熱いお心、お気持ちはしっかり受けとめたいと思います。その上で、先ほど教育長から答弁があったように、今作業部会であらゆる可能性に――答弁の仕方が私もちよっと悪かったというふうに思っております。あくまでも、民営化というのはその手段の一つであるということで、幾つかの要素のうちの一つだと。それをきちんと一つ一つの論点について精査をしてほしいということ。それをもとにして、またその案が出てきた段階で、これ

は市民の方々にもパブリックコメント等あると思いますので聞いてみて、その上できちんと私も議論に加わって判断をしていきたいと思っております。

ちょっともう少し——もう大分なりますけれども、これは重要な話でありますので、時間をもう少しいただければありがたいというふうに思います。

〔8番「すみません、終わりますと言いましたけど」〕

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に12月も同じような市長の考えを聞いております。私、何遍も議事録を読み直しましたので、本当に一緒です。もう時間は刻々と過ぎております。私は、今年度の募集はせめて「北方在住」というのを条例改正して取っていただきたいと思っております。

それから、いろんな方の意見を聞くとおっしゃいましたね。そのときに、今来ている保護者の意見を聞いてください。なぜこの北方幼稚園にやっているのか。その中にきっと答えはあると思っております。私は、ぜひ今年度はそのような募集要項が出ることを強く要望して、終わります。